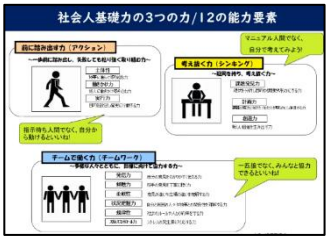
2025年2月フォーラム・リカレント委員会&勉強会ご報告

日　時	2025年2月22日（土）10時～12時00分　　参加者20名（登録者34名）　形式　Webex
テーマ	「社会人基礎力の黎明期を語る」 ～「産業競争力育成」から「人生100年時代に求められるスキルへ」～
内　容	1　主催者挨拶　　4　Q＆A、ブレイクアウトセッション 2　参加者自己紹介　　5　まとめ 3　ゲスト講演　　6　その他
講演者	小松原　潤子　（こまつばら　じゅんこ）氏 学校法人　河合塾　教育研究開発部
司会進行	渡邉明男　（一般社団法人社会人基礎力協議会リカレント委員会委員長）
主催者挨拶 勉強会概要 説明	渡邉リカレント委員長 本日の講師は社会人基礎力第1回グランプリの司会をしていただいた方である。 社会人基礎力黎明期に関する非常に興味深い内容である。改めてお聞きいただきたい。
小松原氏 講演	講　演 ①　社会人基礎力の成立とその背景 ➢ 2005年我が国の産業活動を担う人材育成を目的に経済産業省政策局長の私的研究会として「社会人基礎力研究会」を開催。そこで「社会人基礎力」を定義する。当該研究会の中間とりまとめを経て2007年に「社会人基礎力のススメ」を公表。 ➢ 大学全入時代を迎え職場で必要な力を大学等で育成しなければならいと考える。少子化、家庭や社会での教育力低下が言われ、国際化（競争）も視野に入れた取り組みが必要となった。よって、社会人基礎力の必要性を大学の授業に取り入れ、産業力強化を目的に経済産業省が教育に関与した初めての試みとなる。  ②　社会人基礎力の育成を大学教育へ導入するために ➢ 2007年度「育成と評価の一体化の取り組み」 産業界と大学教育の乖離が問題となり、河合塾が「社会人基礎力」育成事業に参画する。 「社会人基礎力の定義」を発揮事例として作成　⇒　育成と評価を一体化することが重要。 評価を育成のためのツールと考える⇒授業の改善につなぐ（学習指導要領） 評価シート作成を行う。12の能力要素評価に対し大学の教員から　「これまでの　PBL（Project　Based　Learning　（問題（課題）解決型学習）とは違う」などのとコメントが出て、社会人基礎力グランプリの創設へと向かう。 社会人基礎力フォーラム2008（グランプリ）開催⇒毎年開催へ ➢ 2009年度「社会人基礎力育成の手引き」制作 「産業競争力強化」ではなく、体系的に社会人基礎力を育成・評価するシステムを開発し、さらにそれを実証する⇒指導と評価の一体化を具現化し経済産業省がより教育に踏み込むことになる。 PBL だけでなくゼミ・実習・知識習得のための講義など多様な授業活動での社会人基礎力育成が可能であることを示す。 ➢ 2010年度社会人基礎力育成事例研究セミナー開催 全国7会場で開催 ③　社会人基礎力による授業改善の実践 大学などの授業に社会人基礎力を取り入れ、各能力要素について学生が自分でチェックするシートを作成する⇒点数による可視化⇒学生の成長につなげる 授業で知識やスキルだけでなく「仕事の現場で求められる社会人基礎力」も身に着けて送り出

	すための授業を設計し実施する。続いて振り返りを行い授業の進行を教員にアドバイスする。 教員研修で社会人基礎力育成のワークショップを実施する⇒社会人基礎力の重要性を納得していただく⇒教員にとってもやりがいのある授業となる。 ④　最後に 社会人基礎力が必要であると言われて20年が経過　この間に社会は大きく変化した。 人生100年時代を生きる力として必要な力、学び続ける姿勢としての意味付けも変わってきた。 定義も変わる可能性もある。 しかしいつの世にも社会人基礎力の3つの力、12の要素は必要であると考える。
ブレイクアウトセッション	【グループ1】 社会人基礎力を学生向けに取り入れているのは良いと思う。逆に社会人に対して社会人基礎力を導入する際に問題がある。変化を受け入れられない人達について一歩進めるにはどうしたら良いか。 【グループ2】 学生に対して社会人基礎力の必要性を学んで卒業するのは意味のあることと思う。対して社会人の研修に社会人基礎力を取り込む研修等が不足している。今後は社会人に対して場を設けるべきである。 【グループ3】 社会人基礎力の12の要素・定義は現在関わっている地域の小学生にも当てはまる（どの世代にも必要）。大学で社会人基礎力を重視する授業を受けても企業が追い付いていない現状がある。繰り返して社員教育を実施することが企業にも必要。学びたくなる場を提供することが重要だと考える。
まとめ （考察）	「未来の社会人基礎力を考える」 経済産業省の唱える社会人基礎力は若年を対象とした2006年版から12年が経過し、「人生100年時代の社会人基礎力とは」（2018年版）へと変化した。「振り返り」と「どの年代にあっても活躍し続けるために求められる力」が定義された。 今後12年を考えると2030年にはまた新たに定義されることが予測される。組織を超えた「越境学習で育成するポータブルスキル」がますます重要になってくる。リカレント委員会ではこの点に注目していく。
その他	次回のご案内　　日時　2025年4月26日（土）10：00～12：00 講師　大川　陽介　氏　株式会社　ローンディール WILL-ACTION Lab.所長
ご参加のみなさま	ご参加ありがとうございました。